

## 湿式外断熱工法の薦め

お茶の水女子大学名誉教授  
((一社)日本断熱住宅技術協会理事長)

**田中 辰明**



湿式建材業界の情報誌としてスタート致しました建材フォーラムも創刊500号を迎える事になりました。この間出版文化に貢献したご努力に敬意を表します。オリンピック後の湿式建材業界には是非湿式外断熱工法の普及にご努力頂きたいと願います。人口の減少を見据え、これからの建築は量から質への転換が迫られます。そしてエネルギー問題は今後とも我々が常に意識しなければならない問題であります。コンクリート建築の外断熱工法には、①断熱材が建物躯体の外側にあるので、建物が服を着たようになり外気温度や日射の変動から保護される。したがって建物躯体にひび割れが入りにくい。②コンクリートの熱容量が室内側に入るので、暖房が切れても急激に室温が変化しない。同様に夏季は冷房が切れても急激に室温が上昇することはない。すなわち快適性に富む。③室内から屋外にスムーズに水蒸気が抜け、壁体の内部に結露を起こすことがない。従って壁内結露を起こすこともなくカビが生えない。カビを餌として集まってくるダニの被害からも解放される。④既存の建物に断熱改修を行いやすい。極端な場合は室内側をコンクリート打ち放しのまま仕上げるのが可能になるので壁紙の接着剤や塗料から出る揮発性化学物質(VOCs)からも解放される、などの長所があります。さらに開口部である窓、並びに窓周りの気密性、遮音性も良くなっていることから外壁部分に適正な外断熱を施すことにより建物外皮の遮音性が飛躍的に向上します。外断熱工法にも湿式の接着モルタルで仕上げていく「湿式外断熱工法」と「通気層がある外断熱工法」があります。通気層がある外断熱工法は室内の水蒸気が壁体を通して通気層から外部へ排出され、理論が分かりやすいのですが、火災の際に通気層が煙突効果をもたらし、死者を伴う大事故となるケースがみられました。やはり欧州外断熱協会も薦めている「湿式外断熱工法」が事故もなく省エネルギーに寄与し、快適性を向上させる工法であります。脱皮をしない蛇は死ぬと申します。オリンピック後変革の時代が待っています。時代の変化に乗り遅れないよう湿式外断熱の事業に参入しましょう。日本で唯一の建築断熱の団体である(一社)日本断熱住宅技術協会(平田恒一郎会長、〒230-8571横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1、Tel.045-504-8931、URL:<http://www.ndjk.info>)は湿式外断熱工法普及のために欧州外断熱協会とも提携を行い日夜研鑽に務めております。また新規会員の入会をお待ちしております。